

こちら特報部

るためた...に終本の中  
で物語の案内人のリスが話  
したように「おとなになっ

英

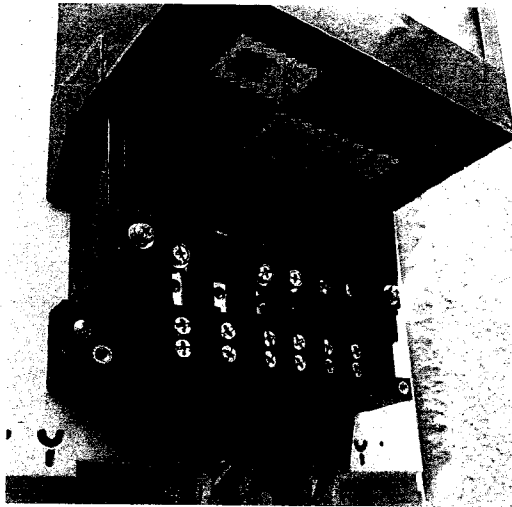


く、とりわけ幼い被害者は  
被害を言い出すのが難し  
い。中川さんが事件を忘れた

「オプトアウト」の追跡

かつ  
印税は、子どもの性被害防  
止活動をする団体に寄付す  
るといっ

# トラブル続きのスマートメーター



本体内部にある通信部が外されたスマートメーター＝読者提供

## 設置拒否 24年度有料化へ

自宅の壁などに設置され、小まめに消費電力を計る電力計「スマートメーター」。突然の発火、不可解に高くなった電気料金、お湯が沸かないなど、とにかく問題が続出している。さらにはデータ送信時に発する電磁波が苦手で設置を拒む人もいる。ただ、二〇二四年度以降は、拒否すると追加料金を取られることになりそうだ。有料化を方向づけたのは経済産業省の有識者検討会。消費者にとつて大きな問題なのに、ほとんど議論せずに決めていた。

「頭痛がするのでお願い  
したり、すぐに来てくれま  
した」。首都圏に住む男性  
はスマートメーターが発す  
る電磁波が気になった。東  
京電力の関連会社で送配電  
を担当している「東京電力

「オプトアウトの権利を  
認め、選択に伴う追加コス  
トは需要家に求めるべきだ  
と合意を得た」

### 意見交換なく 「合意を得た」

しかし、疑問が湧く。冒  
頭の男性のように通信部を  
外し、事実上の「オプトア  
ウト」になっている人はす  
でにいる。追加料金は取ら  
れていない。どうして今は  
無料のものを有料にするの  
だろうか。

この検討会は、新しいス  
martメーターにどんな機  
能を搭載すべきか提言する  
のが役割だった。今のスマ  
ートメーターは一四年度か  
ら設置が始まっており、法  
で定めた十年の使用期限を  
迎える二四年度から交換時  
期に突入する。検討会で  
は、そこに向けて議論を進  
めてきた。

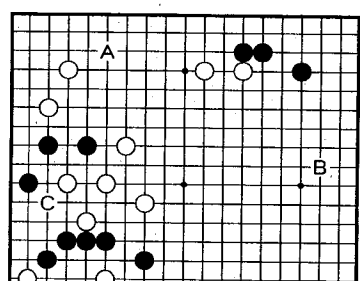
答えを見つげようと、計  
五回開かれた検討会の議事  
録をたぐった。が、意見を  
交わした痕跡は見つからな  
い。事務局側が「どのよう  
な費用負担であるべきか議  
論するべきだ」と促して  
も、十五人の委員のうち東  
京大の松村敏弘教授（公共  
経済）が有料化を「合理的  
だと思っ」などと発言した  
だけだった。

「事務局からの提案に対  
し、委員から反論がなかつ  
たからです」。検討会を主  
催した資源エネルギー庁電  
力産業・市場室の下村貴裕  
室長が説明する。

そんな程度で新たな負担  
を押しつけられては、たま  
ったものではない。松村さ  
んにも聞いてみた。

### 困碁

### 第30回問題

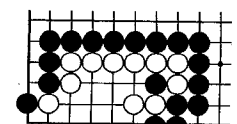


黒番（10点）  
黒の次の一手を、A-Dの中か  
ら選べ。  
ださ。

## さあ！ 段位挑戦

### 碁 詰め

出題 九段 石田 章  
【ヒント】黒先。急所を  
逃さない。（10分で、三  
段）



### 〈第29回の解答〉

第1問正解「5の2」（黒1）  
黒1のハサミツケが急所。白  
きたら黒3と切ります。白4と粘  
りつて黒5と切りますが、コウに構わず黒5か  
ら切ります。

# こちら特報部

さらに気になるのは、追加負担がいったいいくらになるのかということだ。

今のスマートメーターは、三十分ほどの消費電力を計測し、電波で自動送信する。一方、メーター内部で円盤がぐるぐる回る従来型の「アナログメーター」は月に一回、検針員が各家を回って検針する。この検針にかかる費用が、消費者負担になる、というのが一つの考え方だろう。

前出のエネルギーの下村さんによると、スマートメーターを管理する各送配電会社が、海外事例を参考に必要なコストをそれぞれ計算する。決定時期については「まだ分からない」という。

## 米国事例では 毎月700円負担

例の検討会では、一部の州でオプトアウトが有料化されている米国の事例が紹介されていた。

それによると、電力六社の初期費用の最高額は二百五十ドル(約二万七千五百円)、毎月の費用は最高で六十四ドル(約七千円)だった。「意外と高いな」という印象を持った」と漏らす委員の声が議事録に記されている。

これほどの高額となる

# 電磁波過敏症患う女性憤りの声



「じつは電源を入れていません」と自分のスマートフォンを眺める電磁波過敏症の女性(東京都大田区)

# 苦しむ人から金取るのか

と、「オプトアウトの権利」と言いつつ、事実上のスマートメーター強制というのだ。下村さんは「あくまでも海外でのファクトを示しただけ。審議会でこれから議論する」と言っただけ。議論の結果、さらに高くなる可能性もある。

「やむにやまらずオプトアウトする人からも追加料金を取るのか」。検討会の話を聞き、電磁波過敏症に悩む大田区のマンションに住む五十代の女性は憤る。今年三月ごろから、電磁波製品の電磁波で頭痛やめまいを感じるようになった。以降、電子レンジや空気清浄器は使わず、洗濯機や炊飯器はスタートボタンを押すと部屋を出て、近くの公園で終わるのを待つ。外出時は、電磁波を防ぐ帽子とエプロンを身に付けて、できるだけ電車に乗らない遠回りのルートで通勤する。スマートフォンも電源を切ったまま。テレビを見るのもやめた。知人とのメールのやりとりにはパソコンは、LANケーブルでネットにつないでいる。

## 通信部外しを 隣人にも依頼

## 自宅のスマートメーターの通信部は外した。隣の部屋の住人や近くに住む母親にも頭を下げて外してもらった。有料になれば、三台

分の費用を負担しなければならぬ。不安が募る。「車いす利用者が電車の乗降で駅員に補助してもらうと、追加料金を取られるようなもの。公共インフラなのにひどすぎる」。ただ、電磁波過敏症は、まだ保険適用される疾患になっていない。「単なる思い込み」と取り合わない人もいる。しかし、高知県で電磁波過敏症の診療を手掛けたきた臨床環境医の小倉英郎さんは「電磁波を飛ばす機器のスイッチを切ると頭痛が治まり、スイッチを入れると症状が出る。解明されていない部分は多いが、決して思い込みではない」と指摘する。

小倉さんの調査によると、〇〇一二年に「国立病院機構高知病院」の化学物質過敏症外来を受診した十六歳以上の患者計三百四十九人のうち、二割強が電磁波過敏症を患っていた。しかも、その数は一年以降から増加傾向にあるという。「パソコンやスマホが普及していく時期と重なる。現代人は昔と比べ、電磁波を浴びる量が格段に増えている。子どものころから電磁波を大量に浴び、大人にな

# 市民団体「当事者の意見聴き、やり直しを」

なって電磁波過敏症になる人が今後増えていくのではないかと。当初からスマートメーターを批判してきた「電磁波問題市民研究会」の網代太郎さんによると、以前は送配電会社がなかなか通信部を外してくれず、診断書を要求されることもあった。「オプトアウトを認めること自体は一歩前進。でも、困っている人から追加料金を取るなどどこでもない」。米国では今年四月、電磁波過敏症の女性がオプトアウト料金の返還を裁判所に訴え、認められた事例もあるという。

網代さんは「検討会のメンバーは、電磁波過敏症についてあまり理解していない。関心もないから、議論もせずに決めてしまった。ぜひ当事者の意見を聴く場を設け、議論をやり直してほしい」と願う。

検討会のメンバーを見た。スマート社会を考える大学の先生、エネルギービジネスに携わる人。これ、推進派の利害関係者では？ そりゃ他人の負担に関心ないでしょう。電力会社の役員に至っては、金を払うどころかもらう側。こんな人選で「有料化に反対なし」と言われても。(裕)

## 「オプトアウト」

2021.8.1

佐佐木幸綱

女優さんも指しなやかに華やく手話講習会

川崎市多摩区

(評) 手話講習会 いる女優が参加し もとちよつと会場 った感じだったの

初夏の藪よりぬつとつ二といふ顔したる力

東京都青梅市

(評) カモシカと しばらくに取材。

うな、なんとなく カモシカの顔が思

午後八時に重いまぶた シャッターを下ろしゆ

神奈川県平塚市

小澤 實

蚯蚓乾きワクチン 接糧

埼玉県川越市